

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-193260

(P2002-193260A)

(43) 公開日 平成14年7月10日 (2002. 7. 10)

(51) IntCl<sup>7</sup>

B 6 5 D 23/00

識別記号

F I

B 6 5 D 23/00

テマコード<sup>\*</sup>(参考)

P 3 E 0 6 2

審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2000-404560 (P2000-404560)

(22) 出願日 平成12年12月22日 (2000. 12. 22)

(71) 出願人 390006714

富士精工株式会社

東京都品川区南品川 3-6-5 富士ビル  
3 F

(71) 出願人 597067105

株式会社ティーティーエム

神奈川県横浜市青葉区桜台44番50号

(72) 発明者 後藤 周三

東京都品川区南品川 3-6-5 富士ビル  
3 F 富士精工株式会社内

(72) 発明者 高見沢 ▲昇▼

神奈川県横浜市青葉区桜台44番50号 株式  
会社ティーティーエム内

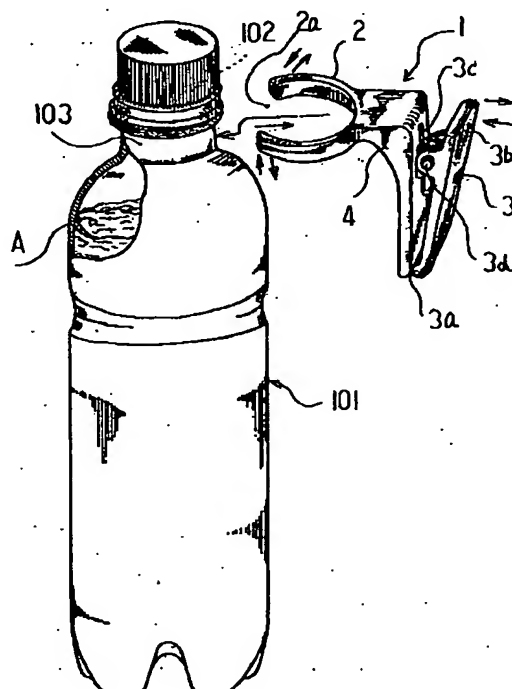
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ペットボトル保持クリップ

(57) 【要約】

【目的】 この発明は、ペットボトルを携帯するために利用者が手に持たずに身廻りに取り付けて、必要に応じて手軽にペットボトルを取り出すことの出来るペットボトルの保持具を提供することを目的とする。

【構成】 着脱自在でなる第1クリップ保持部2と第2クリップ保持部3とが夫々ベース4を介して連結し、第1クリップ保持部2は、開口部2aを持つリング状でペットボトル101の注出口102の下部に設けた首部103に開成と閉成とのアクションで係合自在で、第2クリップ保持部3は、ズボンのベルトなどの被係止部に先端部3aが開成と閉成とのアクションで係合自在にしている。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 着脱自在でなる第1クリップ保持部(2)と第2クリップ保持部(3)(3')とが夫々ベース(4)を介在して連結し、第1クリップ保持部(2)は開口部(2a)を持つリング状でペットボトル(101)の注出口(102)の下部に設けた首部(103)に開成と閉成とのアクションで係合自在で、第2クリップ保持部(3)(3')はズボンのベルトなどの被係止部に先端部(3a)(3a')が開成と閉成とのアクションで係合自在にしたことを特徴とするペットボトル保持クリップ。

【請求項2】 上記する第1クリップ保持部(2)をマジックテープ(登録商標)(オス)(メス)(5)(5a)などのバンド状にペットボトル(101)の首部(103)に巻込み係合自在にしたことを特徴とする請求項1記載のペットボトル保持クリップ。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、ペットボトルなどの飲料容器を携帯するのに使用する保持用具に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 近年になって、ペットボトルと呼ばれる飲料容器が家庭に据え置きする容器のサイズは、2リットル入れの大型で比較的に重いペットボトルの他に500mlサイズの小型で重量も500g程度の屋外などでペットボトルを持ち歩きながら飲用する人が増えている。

【0003】 そしてこれらの小型で軽量のソフトドリンクのペットボトルの注出口は、開閉の出来るネジ式のキャップで密封され、利用者は栓抜きなどの器具を使わずに何回かに小分けして持ち歩きながら、ソフトドリンクを携帯して手軽に飲める。

【0004】 また、これらの小型で軽量のペットボトルを屋外で携帯するのに、特開2000-238783号で開示される飲料容器保持具が知られる。

【0005】 これらの従来技術を図4に示すに、ペットボトル101の注出口102の下部に設けた首部103にはめ込んで着脱可能なゴム製のリング部材104に連結されたホルダ部材105とこれらに係止されたループ形状の紐状体106とからなっており、利用者はペットボトル101を携帯するのに紐状体106を利用者の首や衣服などに吊下げながら使用される。

## 【0006】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら上記する従来技術での小型で軽量のペットボトルを屋外で携帯して持ち歩きながらソフトドリンクを飲むのに首やカバンなどに吊るした状態で身を前かがみにしたり、左右に動かしたり、両手に手荷物を持って喋らに走り出す時など、ペットボトルのふらつきが身動きを邪魔したり、他

の物に当たったりしてしまうという課題がある。

【0007】 またペットボトルをテーブルの面やラックなどに置いて保管するのに、ペットボトルについたままの紐状体が近辺の物品とからみあつたりすることで取扱いに課題がある。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】 この発明は、上記となる課題を解決するために図1図2で示すように、ベース4を介在して第1クリップ保持部2と第2クリップ保持部3、3'との2個所の夫々に物品を挟み込みと解除の出来るようにしたもので、第1クリップ保持部2はペットボトル101のくびれた部分の首部103に弾力性の樹脂成形の開口部2aを差込んで弾力で固定し、そして第2クリップ保持部3、3'で図2は可動片3bに押圧することでその可動片3bの先端部3aを開成と閉成出来るクリップ体で、図3は此の第2クリップ保持部3'は、利用者のズボンのベルトなどに挟みこんで固定することで、ペットボトル101を携帯出来るようにしたものである。

## 【0009】

【発明の実施の形態】 以下に本発明を図示に基づいて更に詳しく説明するに図1、図2で示すように、合成樹脂成形の開口部2aが弾力性でリング状で外周の1部が分割されてこの開口部2aをペットボトル101のくびれた筒体状の首部103に差込んで保持の出来る第1クリップ保持部2を設ける。

【0010】 そして、前記のペットボトル101の首部103に差込自在の第1クリップ保持部2はもう1個の第2クリップ保持部3、3'とベース4を介在して連結する。

【0011】 このように、第1クリップ保持部2は第2クリップ保持部3と連結されて夫々のクリップ体は物品に開成と閉成とが自在に着脱を可能にしている。

【0012】 即ち第1クリップ保持部2は利用者がペットボトル101を携帯するのにペットボトル101の首部103に開口部2aを差込んで固定出来、他のもう1個の第2クリップ保持部3は図2の可動片3bに矢印方向に押圧することで可動片3bの先端部3aが支点軸3bを支点として開成することになり、利用者のズボンのベルトにスプリング3cの張力で先端部3aが閉成し、ベルトに固定される。図3では、そのまま第2クリップ保持部3'を利用者のズボンなどのベルトに差込む。

【0013】 このようにペットボトル101は、利用者の腰のサイドに固定されて、ペットボトル101のみが第1クリップ保持部2に差込んで固定したり逆に取り外してペットボトル101のソフトドリンクを飲むことが出来る。

【0014】 次に他の実施例として、第1クリップ保持部2のリング状の開口部2aの代りに図3で示すよう

3

4

に第2クリップ保持部3、3'に連結するベース4'のサイドに夫々マジックテープ(オス)(メス)5、5aを貼りつけて、これらのマジックテープでペットボトル101の首部103に巻き付けて固定することが出来る構成である。

【0015】

【発明の効果】 本発明は、上述の通り構成作用するので次の優れた効果を奏する。ペットボトルを携帯して利用するのに、利用者が自分のズボンのベルトなどの手近かな所に、直ぐに第2クリップ保持部をはさみ込んで固定した状態で他のもう1個の第1クリップ保持部には自由

にペットボトルを定位置に保持出来る使いやすいペットボトル保持クリップを提供出来る。

【0016】 また、第1クリップ保持部はペットボトルの注出口に近いくびれた部分の首部の溝に差込まれた状態で利用者の腰に密着されることで利用者が好き勝手に動き回っても、身の動きに邪魔にならないペットボトル保持クリップを提供出来る。

【0017】 また、第1クリップ保持部の開口部が常時同じ方向にあることで暗がりでも手探りで安直にペットボトルの首部を開口部に差込んで固定の出来るペットボトル保持クリップを提供出来る。

【0018】 次に他の実施例として、図2で示すようにマジックテープなどのバンド状をペットボトルの首部に巻込んでペットボトルの首廻りの太い細いに関係なく締付けることの出来るペットボトル保持クリップを提供出来る。

【0019】 このように夫々の2個のクリップ体が連係して固定されることでペットボトルを固定する被係止部がズボンのベルトに限らずセカンドバッグやウエストバックなどに第2クリップ保持部を挟んで固定する利用者の身廻りの着装部だけでなく、広くは車の後席のボケ

ットなどの開口部のふちに第2クリップ保持部を固定することの出来るペットボトル保持クリップを提供出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明に係わる、ペットボトル保持クリップの全体斜視図を示し、同時にペットボトルに着脱する状態斜視図である。

【図2】 本発明に係わる他の実施例を示す全体斜視図である。

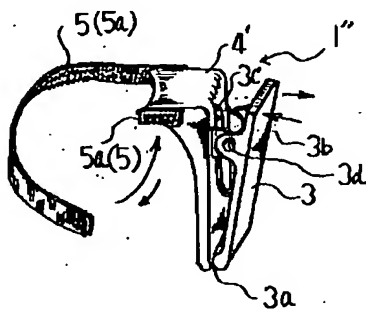
【図3】 本発明に係わる他の実施例を示す全体斜視図である。

【図4】 従来技術での飲料容器保持具でのペットボトルに装着した状態での全体を示す斜視図である。

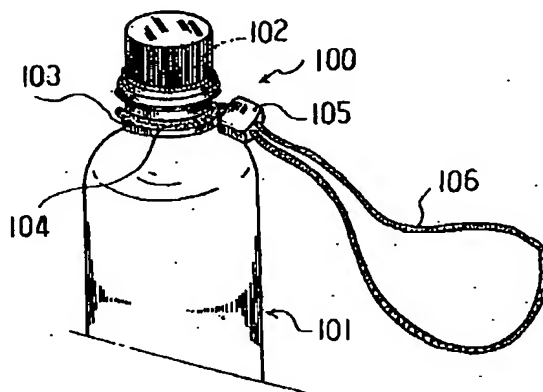
【符号の説明】

- |          |              |
|----------|--------------|
| 1、1'、1'' | ペットボトル保持クリップ |
| 2、       | 第1クリップ保持部    |
| 2a、      | 開口部          |
| 3、3'、    | 第2クリップ保持部    |
| 3a、3a'、  | 先端部          |
| 3b、      | 可動片          |
| 3c、      | スプリング        |
| 3d、      | 支点軸          |
| 4、4'、    | ベース          |
| 5、       | マジックテープ(オス)  |
| 5a、      | マジックテープ(メス)  |
| 100、     | 飲料容器保持具      |
| 101、     | ペットボトル       |
| 102、     | 注出口          |
| 103、     | 首部           |
| 104、     | リング部材        |
| 105、     | ホルダー部材       |
| 106、     | 紐状体          |

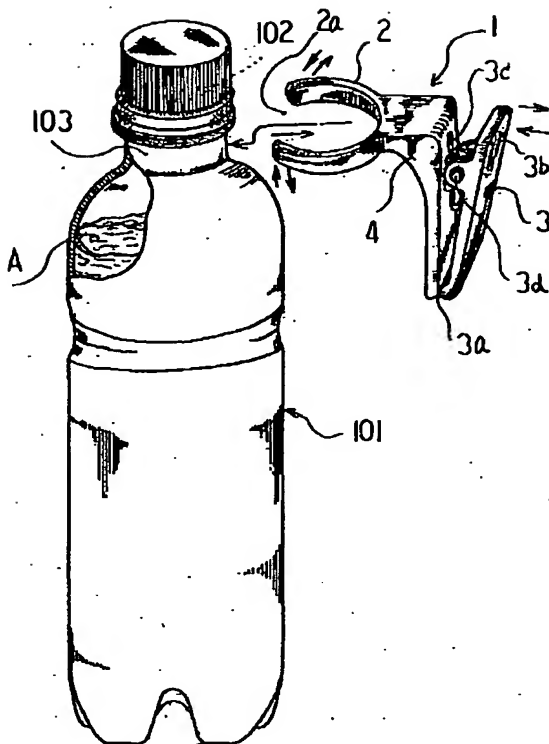
【図3】



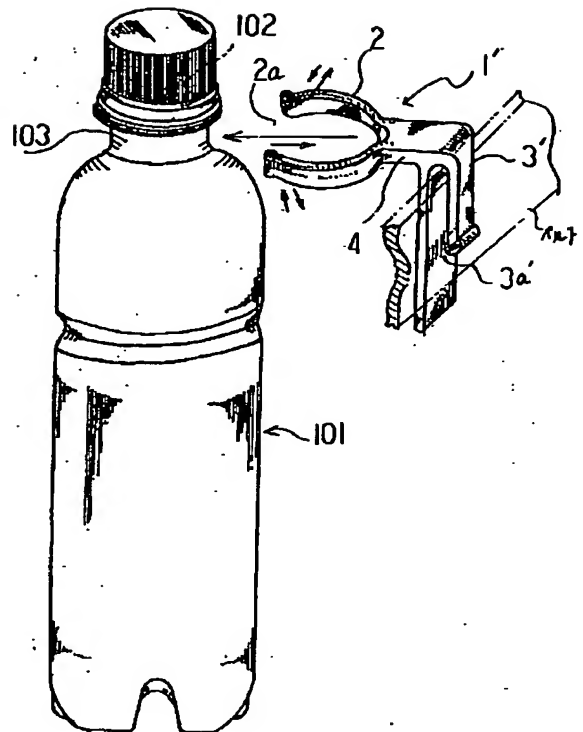
【図4】



【図1】



【図2】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3E062 AA09 AB02 AC02 GA10 GB09  
GC01 GC07

PAT-NO: JP02002193260A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2002193260 A  
TITLE: GRIP FOR HOLDING PET BOTTLE  
PUBN-DATE: July 10, 2002

INVENTOR-INFORMATION:

| NAME               | COUNTRY |
|--------------------|---------|
| GOTO, SHUZO        | N/A     |
| TAKAMIZAWA, NOBORU | N/A     |

ASSIGNEE-INFORMATION:

| NAME          | COUNTRY |
|---------------|---------|
| FUJI SEIKO KK | N/A     |
| TTM:KK        | N/A     |

APPL-NO: JP2000404560

APPL-DATE: December 22, 2000

INT-CL (IPC): B65D023/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a grip for holding a PET bottle enabling a user to carry a PET bottle by attaching it to personal wearing goods without holding by hands and to pick the bottle easily when necessary.

SOLUTION: A first grip holder 2 allowing a PET bottle to be attached and detached and a second grip holder 3 are connected through a base 4. The first holder 2 allows engagement of the PET bottle freely at the neck 103 below the cap 102 of the PET bottle 101 by an action of open or close. The second grip holder 3 allows the tip 3a to be freely engaged with goods to be held such as a belt for pants or the like by an action of open or close.